



岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

耕作放棄地の畜産的利用と絶対地代の形成に関する
実証的研究

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2008-03-12 キーワード: 作成者: 小栗, 克之 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/527

はしがき

現在、わが国の農村では過疎化や高齢化が進み、耕作放棄地が増加している。他方、肉用繁殖牛飼養農家に端的にみられるように、頭数規模を拡大している畜産農家は自作地の狭小さから自給飼料が不足し、放牧場や採草地の利用適地を求めている。

そこで、本研究では、①耕作放棄地を畜産農家が飼料生産基盤として活用しうる条件、及びその方法を明らかにするとともに、②絶対地代（所有地代）形成の実証的研究を行うことを目的とした。

②の点の意義についていえば、中山間地の耕作放棄地の多くは、担い手不足の問題だけではなく、劣悪な耕地条件（傾斜地、農道の未整備等）にあり、最劣等地に位置するところも少なくない。最劣等地における貸借関係のキーポイントとなる借地料形成は、学術的には限界地における絶対地代（所有地代）形成の問題にほかならない。

本報告書は、内容的には2部構成からなる。第1部は「遊休農地の畜産的利用」、第2部は「所有地代の形成—新しい絶対地代の形成—」である。第1部は前述の研究目的①に対応するものであり、第2部は同様に前述の研究目的②に対応するものである。

平成14年3月

小栗克之

研究組織

研究者： 小栗 克之 （岐阜大学 地域科学部 教授）

交付決定額（配分額）

単位：千円

	直接経費	間接経費	合計
平成11年度	600	0	600
平成12年度	600	0	600
平成13年度	600	0	600
総計	1,800	0	1,800

研究発表

- (1) 小栗克之・陳 暁紅：遊休農地の畜産的利用、岐阜大学地域科学部研究報告 第8号、平成13年(2001年)2月
- (2) 小栗克之：所有地代の形成、岐阜大学地域科学部研究報告 第10号、平成14年(2002年)2月